

令和6年度 外務大臣表彰（2） 受賞者の紹介

外務大臣表彰は、日本との友好親善関係の増進に特に顕著な功績のあった個人および団体について、その功績を称えるものです。令和6年度は東京本部の推薦により、小笠原欣幸氏、日華青少年交流協会が、台北事務所の推薦により玉蘭荘（社団法人台北市松年福祉会）、東呉大学日本語文学科が、高雄事務所の推薦により潮音寺管理委員会、バシー海峡戦没者慰霊祭実行委員会が受賞されました。ご功績に対し、衷心より敬意と感謝を表します。今号では、台北事務所・高雄事務所推薦の4団体をご紹介します。

玉蘭荘（社団法人台北市松年福祉会）

功績概要：日本と台湾との相互理解の促進

同団体は、1989年に設立。日本語による集会を禁止していた戒厳令が解かれ、戦前戦後に台湾

人と婚姻した台湾在留日本婦人や、日本語教育を受けた台湾人に対して、日本語によるケアを実施してきた。現在は毎週2回、日本語による歌唱や手芸、習字等を行い、バザーや日本の学生との交流など行事も多く開催。また同団体と歴史的・人的つながりのある教会、日本語で活動している他の台湾人コミュニティ、関心を持つ日系企業との交流の場を持つなど、在留邦人等の福祉の向上に貢献。

受賞のことば

尊敬する片山代表閣下、ご来賓の皆様、ご参列の皆様、こんにちは。

本日この場で「玉蘭荘」を代表して日本国外務省から栄誉ある賞を賜ることができ、私の心は感謝の気持ちで満ち溢れています。私たちにとって、



この賞は単なる評価を超え、日台友情の美しい絆を証明するものです。

「玉蘭荘」の創立は、日本キリスト教海外医療協力会が台湾に寄せた愛と密接に結びついています。三十数年前、堀田久子宣教師は戦前に台湾に嫁いできた日本人女性たちが言語や文化の隔たりから孤独な生活を強いられているのを目の当たりにして、キリスト教の信仰と人々への思いやりから1989年に「玉蘭荘」を創立しました。

彼女は揺るぎない信念と不屈の努力で、長老教会の長老や牧師と共に、これらの高齢者に愛と思いやりに満ちた活動の場を提供しました。

当時の「玉蘭荘」は、まさに「先見の明」を持っていたと言えます。台湾が高齢化社会に突入し、政府が高齢者のケアにリソースを投じ始める三十年以上も前から、「玉蘭荘」は高齢者たちに精神的な支えと健康的な老後を送る空間をいち早く提供してきました。私たちの提供するケアは、物質的な側面を超え、キリスト教信仰に根ざした愛と精神に基づき、高齢者が健やかな老後を送り、内なる平和と満足を見出す手助けをしています。

私たちは、知識だけでは内なる空虚を満たすことはできず、富や楽しみも心の渇きを癒すことはできないと信じています。真の満足は、神との和解による精神的関係から生まれるものであり、これは「玉蘭荘」創立以来の核心理念でもあります。心が満たされる時、物質的な側面も意味を持つようになります。この精神的な豊かさこそが、「玉蘭荘」が長年にわたって持続的に発展してきた基盤といえます。

本日、私たちは日本国外務省の評価を受けられたことを非常に光栄に思っております。この栄誉は、私たちの過去の努力に対する肯定だけでなく、日台友好を称賛するものでもあります。歴史、文化、精神といった面における日本との深い繋がりに感謝し、このような背景のもとで引き続き社会への貢献や、ケアが必要な高齢者、特に日本語を話す高齢者へのサービスを続けていきます。

今後も、この信仰と使命を持ち続け、この愛を広めていく所存です。また、日本台湾交流協会のご指導のもと、より豊かな異文化交流を展開し、さらに多くの人々がその恩恵を受けられるよう努

めてまいります。

改めまして、日本国外務省、そして私たちを支えてくださるすべての方々に感謝申し上げます。私たちの友好と協力が永遠に続き、日本と台湾の双方にさらなる福祉と平和がもたらされることを願っております。ありがとうございました。

東呉大学日本語学科

功績概要：台湾における日本語教育の促進

同学科は、1972年の日本語学科前身創設以降、1980年に修士課程、1991年に台湾の日本語学科では唯一の博士課程を開設し、台湾全土の日本語教師の養成及び研究者の育成に携わっている。2001年には在職者のための社会人修士課程を開設するなど現職者のキャリアアップ支援も開始。また中等教育機関の日本語教育支援として、1999年より高校生日本語スピーチコンテストを毎年開催し、2023年で25回を迎えた。台湾における日本語教育とその普及に大きく貢献し、日台交流の促進にも寄与している。

受賞のことば

本日、このような栄誉ある外務大臣表彰を賜り、心より感謝申し上げます。また、この受賞に際しましてご推薦を頂きました日本台湾交流協会の皆様に、改めて深く御礼申し上げます。

東呉大学日本語学科は51年の歴史を誇り、日台両国の架け橋としてさまざまな活動に取り組んでまいりました。特に、26年続く全国高校生スピーチコンテストや、数々の国際シンポジウムの開催には、交流協会の皆様の多大なるご支援を賜り、この場を借りて感謝の意を表したいと存じます。

今回の受賞は、私たちにとって大きな喜びであると同時に、さらに大きな責任を担う機会であると深く受け止めております。これからの新しい世代に必要とされる日本語人材は、単なる言語スキルにとどまらず、AIテクノロジーを柔軟に活用し、日台関係の発展に寄与できる広い視野を持つ人材です。経済面だけでなく、地域の安全や文化



交流においても重要な役割を担える人材の育成が、私たちの使命であると考えております。

私たちの多くの専任教師が、かつて交流協会の奨学生として日本で学ぶ機会をいただき、その温かいご支援が現在の私たちの成長の礎となっていることを深く心に刻んでおります。この感謝の気持ちを胸に、今後も恩返しの思いを込めて日本語教育に邁進してまいります。

最後に、この荣誉ある賞は、51年の歴史の中で巣立っていった数多くの卒業生たちの活躍の賜物であると固く信じております。卒業生たちは、それぞれの立場で日台の架け橋として尽力し、両国の相互理解と友好関係の発展に貢献してまいりました。彼らの存在なくしては、今日の受賞はありえませんでした。この場をお借りして、卒業生の皆様にも深く感謝申し上げます。今後も日台交流の架け橋として、誇りと使命感をもってその責務を全うしてまいります。皆さまのご支援に心から感謝申し上げますとともに、引き続きよろしくお願い申し上げます。

潮音寺管理委員会

功績概要：日本と台湾との相互理解の促進

同団体は、戦時中のバシー海峡で12日間漂流の末、奇跡的な生還を遂げた故・中嶋秀次氏による私財と日本各地からの浄財により、バシー海峡戦没者慰霊施設である潮音寺を1981年に建立。以降現在まで戦没者を慰霊するとともに、日本等

から訪れたご遺族から託された物品や遺品などを管理・展示し、バシー海峡における惨劇を後世に伝えている。戦後70周年となる2015年にはバシー海峡戦没者慰霊祭実行委員会と共に慰霊祭を開催。以後毎年慰霊祭を続け、慰霊活動を通じた更なる日台友好に取り組んでいる。

受賞のことば

この度、潮音寺の取り組みが日本台湾交流協会より表彰という形で認められ、令和6年度外務大臣表彰を受賞しました。表彰を頂くことができ誠に光栄に思いますが、実際、この賞に本当にふさわしいのは、潮音寺の創始者である中嶋秀次様です。

中嶋様が1944年に12日間海で漂流した際、仲間の助けを求める叫び声は絶えることがなく、そのため30年間寝ることもままならない状況となった彼は、仲間の魂を慰めるため、全財産を投じて潮音寺を設立しました。

40年前の潮音寺設立初期、多くの家族が参拝に来ていましたが、その後参列者は徐々に少なくなり、それに加えて、潮音寺には平時の管理スタッフがいないため、2009年、潮音寺の土地転売事案が発生した際、買い主は潮音寺が空き家だと思い込んでいました。土地転売事案は、買い主が自らこちらに連絡し地上の建物の解体を要求して初めて明らかになりました。当時私が中嶋様に連絡してこの事案のことを伝えた際、既に高齢だった中嶋様はすぐ台湾に来ることができず、私に、「鍾



さん、潮音寺、お願いします。」と言いました。この言葉のために私は3年間屏東裁判所に通い、やっとの思いで勝利を勝ち取りました。買い主も事実を知らず罪はなかったため、私は潮音寺の土地を自らの資金で買い戻し、土地の所有権を自分名義で登記しました。裁判所から勝訴判決が出された際、92歳になっていた中嶋様は、その話を聞き、再度私に「鍾さん、後を任せたよ!」と言い、心穏やかにこの世を去りました。私はこの言葉により、潮音寺を守る責任を担いました。

土地転売事案発生後、建物の所有者（潮音寺設立初期、土地と地上の建物は中嶋様の友人の名義を借りて購入）にも、地上の建物の名義変更を要求され、当時は三普旅行グループの董事長である謝様ご夫妻が気前よく資金拠出して下さったおかげで、地上建物の所有権を順調に得ることができました。

そうしてすべてが落ち着いたと思った矢先に、2016年、ムーランティ台風（台風14号）がバシー海峡から恒春半島に上陸し、老朽化していた潮音寺は、壊滅的な被害を受けました。潮音寺を保存するため、私は500万台湾ドルをかけて潮音寺の内外を修復し、また日本の友人の援助のおかげで、潮音寺は現在の姿を維持することができました。今は11月の慰霊祭のほか、中元節にも供養を行っ

ています。

これからも私のできる限り潮音寺を守っていくつもりです。そして私の後には息子の呉凌輝がおり、彼はこの約束を守りつづけていくと言ってくれました。これは魂を休ませる場所を提供するだけでなく、中嶋様との約束を守るためでもあります。

今後もより多くの方々に潮音寺を参拝していただき、天国にいる魂を慰めたいと思います。

バシー海峡戦没者慰霊祭実行委員会

功績概要：日本と台湾との相互理解の促進

同団体は、戦後70周年となる2015年に台湾在住日本人を中心とした有志によりバシー海峡戦没者慰霊祭実行委員会として設立。10万人とも20万人とも言われているバシー海峡戦没者の慰霊活動を継続的に実施している。本年11月で10回目となる慰霊祭には、毎年多くの台湾在住日本人、台湾側協力者のほか、日本からご遺族も参列している。日本と台湾双方の人々に対して、バシー海峡における第二次世界大戦時の惨事を忘れることがないよう継続的な活動を行うと共に、慰霊活動を通じた更なる日台友好に取り組んでいる。

受賞のことば

この度は、このような栄誉ある外務大臣表彰を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。そして、初回から共に慰霊祭を作り上げてきてくださいました潮音寺管理委員会の皆様と共に受賞できましたこと、大変嬉しく思っております。

私たちはバシー海峡方面において10万人とも20万人とも言われる戦没者の無念を胸に、毎年の慰霊祭を通じてこの教訓を後世へと繋げることを使命としています。

本慰霊祭は2024年でちょうど10度目を数え、延べ1000人近い皆様にご参列いただき、多くのメディアでも報道されました。しかしながら、ほとんどの日本人は未だこの海域で起きた惨事はおろか、バシー海峡の存在すら知らず、私たちの使命はまだまだ道半ばであります。

エネルギー、鉱物、食料資源の大半を海外に求める日本にとって、この海域は地政学的に極めて重要であり、安全保障上の生命線であることは言うまでもありません。80年前に志果たすことなく海の藻屑と消えた多くの命が何を語りかけているのか、現代に生きる私たちはその教訓を学ばねばなりません。

それにもかかわらず、戦後の日本及び日本国民は今日までの長きにわたりこの海域の戦没者の存在を置き去りにし続けてきました。特殊な外交事情、治安上などの問題からこの海域だけは国としての慰霊もなく、ご遺族は無念の思いのやり場ありませんでした。

「バシー海峡戦没者」という名を冠した私たち実行委員会が外務大臣表彰を受賞したことは、「バシー海峡戦没者」が初めて正式にお国からその存在を認められた証と受け止めております。その意味からもこの受賞はこの海域の全ての戦没者とそのご遺族に捧げたいと思います。

「人は二度死ぬ」と言われます。一度目は肉体の死、二度目は私たち後世の記憶から忘れ去られた時を指します。私たちはバシー海峡戦没者に二度目の死を迎えさせぬよう、「心に刻み決して忘れない」という意味の「銘心鏤骨」という言葉をスローガンにしています。このスローガンを胸に、今後も潮音寺管理委員会の皆さんと共に慰霊祭を継続して参る所存です。

最後になりますが、改めましてこの表彰を賜りました外務省の皆様、受賞に向けてご尽力くださいました日本台湾交流協会高雄事務所の皆様に心から感謝申し上げます。

